



**Sounds Good / 感度よし**

09分50秒/2018年制作/エストニア・デンマーク/Sander Joon / サンデル・ヨーン

録音技師は、キノコの音を録音しようとする。



エストニア出身。2D、3D、伝統的な手描きのアニメーションを制作。デザインを重視したアニメーションで、ユーモアを交えた超現実的な世界を創り出している。『Velodrool』『Moulinet』『Sounds Good』は国際映画祭で受賞多数。現在、短編『Sierra』を制作中。



**Face Recognition / 顔認識**

06分45秒/2021年制作/エストニア/Martinus Daane Klemet / マルティヌス・ダーネ・クレメット

顔認識の失敗。死に損ないのIgor-503は、乱痴気騒ぎの夜に警官の探知機から逃げている。



エストニア芸術アカデミー卒。『In the Air』『Fatcula』『In the Air』等で多数上映・受賞。MV、CM、美術館のコミッションワーク等多様なアニメーションコンテンツを監督。エストニア、オーストラリア、コソボ、メキシコ、出身校でのアニメーション指導等に招聘される。



**About Love / 愛について**

13分08秒/2020年制作/エストニア/Girlin Bassovskaja / ギルリン・バスソヴスカヤ

結婚して何年も経つ男と女。彼らの愛の大聖堂での、すべてが耐えられないほど息苦しく繰り返す日常。何かを変えなければならない。偶然ではなく、神の導きであることに二人は気づくだろうか。



ギルリン・バスソヴスカヤはエレナ・ギルリンとマリ・リース・カルラ(別名マリ・リース・バスソヴスカヤ)の共同名。2004年から6作品共同制作。ギルリン:1979年生まれ。2001年エストニア芸術アカデミー舞台デザイン卒。バスソヴスカヤ:1977年生まれ。タルトゥ大学とエストニア芸術アカデミー卒。『Old Lady and Death』等制作。



**Four Stones / 四つの石**

15分22秒/2021年制作/エストニア/Francesco Rosso / フランチェスコ・ロッシ

一人の僧侶が、欲望と否定を交錯させながら、現在と過去の人生を歩んでいく。修道院での生活、そしてその後の都会での生活は、ループするパターン、偶然の一致、避けられない結果を中心に展開。崇高なサウンドと繊細な象徴の体系が、僧侶とその仲間たちが自分たちの不幸に対処するための道を進みます。



フィン・ウゴル系民族に囲まれて暮らす画家、映像作家、アニメーション作家。



**Life24 人生 / 人生24**

09分00秒/2019年制作/エストニア/Kristjan Holm / クリスチャン・ホルム

独身主義の男性であるエイナル・ヤーンセグが一種のくじ券に当選する。



1999年にインテリアデザイナーとしてエストニア芸術アカデミー卒。部屋の壁が4つに限られる事に悩み、フィルムにも4つの壁があるという思いがけない発見をする。フレームと壁の関係を調査することに人生を捧げる。



**The Stork / コウノトリ**

15分13秒/2020年制作/エストニア/Lucija Mrzljak & Morten Tšinakov / ルチア・ムルズヤク & マルティン・ツィナコフ

バルコニーでタバコを吸っていた市民のクノトリは、自分が人間ではなく、鳥であることに気づく瞬間がある。同じ頃、男と女が昼食をとっている。時計からカッコウが飛び出してくると、男は慌ててアパートを出て行く。女とクノトリの出会いはいは...



クロアチア出身。エストニアで活動。ザグレブ、クラクフ、プラハ、タリンの美術学校で学ぶ。プリート・オルガ・パレンに師事。アニメーション修士課程修了後、koonifilmで経験を積む。数々の賞を受賞。ツィナコフ:ヴィリヤンディ生まれ。エストニア芸術アカデミーでプリート・オルガ・パレンに師事。2本の映画を制作。現在koonifilm所属。



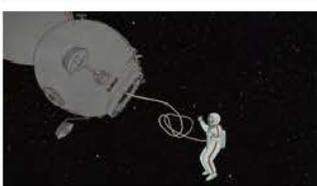
**Food Chain / フードチェーン**

08分30秒/2018年制作/エストニア/Mari Kivi and Liis Kokk / マリ・キビ、リース・コック

食べ物を作る、消費する。供給工程の清潔度が不十分であっても、最終的に十分に美味しいものである限り、私たちは見て見ぬふりをする。食べ物を作ることへのファンタジー、美味しいものを食べたときの満足感がテーマ。



キビ:エストニアを拠点に活動。絵画の学びがアニメーション研究につながる。フリーランスのイラストレーター、ジャケット・デザイナー、短編アニメーション監督等。コック:エストニアのアニメーター。タリンを拠点にし、エストニア芸術アカデミーでアニメーションを学ぶ。現Nukufilmi Lastestuudio教師。



**Cosmonaut / 宇宙飛行士**

11分37秒/2019年制作/エストニア/Kaspar Jancis / カスパル・ヤンシス

年配の宇宙飛行士は、コンクリートのアパートで若い頃に宇宙ステーションにいた時と同じような生活をおくる。今なお英雄的任務を遂行し、故郷の近親者に会いたいと思う。だが家族たちの見方はまったく違う。果たしてこの老人は、社会常識を理解できるだろうか?宇宙飛行士は宇宙飛行士であり続ける。最後の最後まで。



1975年タリン生まれ。1996年タリン教育大学入学後、トゥルク応用科学大学に編入しプリート・パレンに師事。デビュー作『Romance』、パレン、プリート・テンデルとの共作『Frank and Wendy』以来国際的に活躍。『Piano』『Morten on the Ship of Fools』等がある。

エストニアプログラム監修  
Estonia Program Supervisor  
Akira Arimochi / 有持旭

美術作家。エストニア芸術史家。近畿大学准教授。2012年からエストニア芸術アカデミー客員研究員を2年間務め、帰国後、民族学的なエストニア・アニメーション史論で東京藝術大学大学院映像研究科にて博士号取得。DNP文化振興財団の紀要のほか雑誌『TRANSIT』47号にも寄稿。最近ではエストニアにおけるアニメーションとメディアアートの関係性に注目している。

二つのエストニア・プログラムは「人とシステム」や「生活習慣」をテーマにしています。

一つは、1960年代から風刺画家として活動し、80年代にはシュルレアリスト・グループを結成し前衛芸術活動をしていたプリート・パルンとマッティ・キュットのプログラムです。ユーモアと不条理を孕んだ彼らの作品は日本でも何度か上映されてきました。この度、二作品とも日本では十数年ぶりの上映となり、『Sky Song』はDVD化もされていないので貴重な鑑賞機会となります。

もう一つは、ポスト・パルン世代として70、80年代の作家が制作した短編作品のプログラムです。作家たちの多くが幼少期に

ソビエト社会を経験し、大学ではパルンの指導の下でユーモアを継承し、現在は国内でデジタル・ガバナンスに身を置いています。こうした作家たちにはドローイング力、撮影技術、物語のアイデアなど特化したものがあります。例えば、クレメット作品には漫画やゲームの影響があり新世代を感じさせます。ギルリン・バツゾヴスカヤはヌクフィルム、ムルズヤク & ツィナコヴやホルム、ヤンシスはヨーニスフィルムといった歴史あるアニメーション・スタジオで制作し、サンデルはバップという若手作家が集まったアニメーション・スタジオの協力を得ています。こうした体制は世界の中で高水準の作品を発表してい

く基盤となっています。すでに国際映画祭で評価されている作品ばかりですが、半数以上の作品は日本の映画祭で初公開となります。

エストニアプログラム監修  
Estonia Program Supervisor  
Akira Arimochi/有持旭

美術作家。エストニア芸術史家。近畿大学准教授。2012年からエストニア芸術アカデミー客員研究員を2年間務め、帰国後、民族学的なエストニア・アニメーション史論で東京藝術大学大学院映像研究科にて博士号取得。DNP文化振興財団の紀要のほか雑誌『TRANSIT』47号にも寄稿。最近ではエストニアにおけるアニメーションとメディアアートの関係性に注目している。



### Night of the Carrots / ニンジンたちの夜

28分52秒/1998年制作/エストニア/Priit Pärn/プリート・パルン

誰もがこの大惨事を予感していなかったろう。とりわけ、顔を見れば名前がわかる男、ディエゴは。しかし、突然、靴は水で濡たされてしまう。ユリアのヒールの音が廊下に響く。もはやアンダーグラウンドは小声では話さない。いつもはこうして始まるのだが、今や残された希望はニンジンたちの夜しかない。



1946年タリンに生まれ、1960年代末から風刺画家、イラストレーターとして活躍。1970年代以降アニメーション制作を開始。1994年～2007年トウルク応用科学大学アニメーション専攻、そして2006年～2019年エストニア芸術アカデミー・アニメーション専攻で教鞭を執る。生涯功労賞8回受賞、50以上の国際アニメーション・短編映画祭に審査員として参加。現ヨーロッパ・フィルム・アカデミーメンバー。



### Sky Song / 空の歌

45分16秒/2010年制作/エストニア/Mati Kütt/マッティ・キュット

形と素材の実験アニメーション。空を飛びたいすべての人への賛歌。意志と訓練で一息に月へ行ける。一部のキャラクターは人類の歴史に由来し象徴記号。シュールさがある。単に月に荷物を届ける郵便配達人の旅ではない。諸問題や雑念を超えて任務を遂行する彼が時間や時代想像力をめぐる哲学的な旅でもある。



1947年生まれ。TallinnfilmやJoonisfilmでアニメーターや監督を担当。1980年以降風刺画と絵画を組み合わせたオイルパステルを制作。エストニアの画家協会、芸術協会、監督連合所。2001年～2002年にRocky Mountain Art and Design Collage (米・デンバー)で講師を務めた。